

# 中大杉並高校が韓国の高校と交流

## 2泊3日で地引網など楽しむ

中央大学杉並高校は7月

23日から25日まで千葉県で、韓国の中山外国語高校と合同サマースクールを行った。両校は、中山外国語高校の理事長が中央大学の卒業生であった縁で6年前から交流をはじめ、1年ごとの相手校訪問・ホームステイ・合同キャンプなどを実施。今年度は中大杉並高校が迎える番で、合同サマー

スクールには中山外国語高校34名、中大杉並高校46名、計80名の生徒が参加した。両校の生徒は23日に中大杉並高校を出発し、成田ゆめ牧場で乳搾りなどを体験した後、九十九里海岸へ。韓国に面しているのは日本海と黄海なので、中山高校の生徒には初めて見る太平

洋となった。

24日は大房岬で山歩きをした後、北浜海岸で地引網を体験した。生徒達は全員揃いのTシャツを着て地引網に挑んだ。この地引網には地元、南房総市の副市長が視察に訪れ、東京新聞の記者も取材に来るなど各方面からの注目が集まった。なかなかの豊漁で、生徒達は採れた魚でバーベキューを楽しんだ。

最終日の25日は、鴨川シーワールドから東京湾アクアラインの海ほたるを経由して、江戸東京博物館を訪れ、両国駅で解散した。

中山高校との交流に当初から携わり続けている中大杉並高校の菊池明範教諭は、「両校教員手作りの、語学

にとられない異文化交流体験がプログラムの目的です」という。通常こうしたプログラムは業者に企画・運営を委託するケースが多いが、この合同サマースクールは両校教員が一から企画・運営を行っているという。

「中杉生が韓国の生徒と交流するには、日本語、英語、韓国語という3つの言語を使います。韓国語はほとんどわからないから、持っている言語で伝える工夫が必要です。もう、意思疎通だけが目的で、何語ということなしで話すことになるんです。これが文法や発音などを気にして畏縮してしまう英語圏との交流と異なる点です。合同サマースクー



ルではそうした点を一切気にしないで交流できます。これが『語学にとられない異文化交流』です」と菊池教諭。

「教員だけで手作りの計画をしているから、まだまだ手探りの部分も多い。本当に大変だし忙しい」と菊池教諭はいうが、日韓両



絵を抱える沢崎さんをはさんで、平野教授（左）と高田さん（右）

国の高校生の交流に中央大学の付属高校が積極的に関

わっているのは喜ばしい限りだ。

（学生記者 駒田恵二 法学部2年）

## 平野陽一理工学部教授が激賞

### 本誌夏季号掲載の油絵『お菓子の家』

「『Hakumonちゅうおう』の夏季号表紙ウラにのっている絵が、いい絵

だなと思いました」。

こんな文面ではじまる

7月5日付けの手紙が、文

学部事務室経由で入学企画

課内の編集室に届いた。差

し出し人は理工学部経営シ

ステム工学科の平野陽一教

授。文面には、続いて「一

度現物を拝見したいのです

が：」とあった。

絵の作者は、文学部1年

の沢崎まどかさん。「美術

倶楽部CATS」顧問の高

田学さんの指導で描いた作

品が、この『お菓子の家』

という油絵だ。

早速、編集室で高田さん

にメールを送り、平野教授

の意向を伝えると――。

△すぐに沢崎さんに連絡

をとります。多分戸惑いが

先に来て：そして笑顔があ

り、どうしよう!?!と。わた

しもうれしいです!とメールが返ってきた。

その後、高田さんと平野

教授との間でメールのやり

とりがあって、沢崎さんを

加えた3人が初めて顔を合

わせたのは、7月26日。

1号館入学センターにや

や遅れて来た沢崎さんに、

平野教授は原画をはじめて

見た印象を「すてきですよ

とひとこと。表紙ウラの絵

を見た瞬間は、「あっ、いい

自分にあっている」と感じ

たという。

沢崎さんは、平野教授の

お褒めの言葉に、「意外な」

とばかりに目を丸くし、身

を縮めるようにして、恐縮

するばかりだ。

平野教授自身は、絵を描

いてはいないというが、絵

を鑑賞するのは大好き。展

覧会はもちろん、後菜園

キャンパス近くの美術館に

はよく足を運ぶ。絵の下に

掲載されている沢崎さんが

書いた「ヘンゼルとグレー

テルが見つけたのはお菓子の家」ではじまる短い文章にも、平野教授は「感心した」という。

沢崎さんの絵のどこが気に入ったのですか?とぶし

つけない質問をすると――。

「好きと思った。それが

いい絵なのです」と明快。

高田さんが「よかったね」

と誘うと、沢崎さんは、よ

うやく「うれしいです」と

口を開き、はにかんだ。大

学に入って初めて描いた油

絵が、こんなに喜んでもら

えるなんて：：と驚きと戸

惑いが隠せない表情だ。

3人の話は弾み、結局、

絵は平野教授に差し上げる

ことになった。3人に三様

の笑顔が広がった。



# 理工学部の戸井武司教授が

## 「グエル別邸」の鐘復元に協力

### シミュレーションで環境にふさわしい音創り

理工学部精密機械工学科の戸井武司教授と音響シテム研究室は、この夏、世界的な建築家アントニ・ガウディが手がけたスペインの文化遺産である「グエル別邸」の鐘を復元、9月5日、スペイン・バルセロナで行われ、関係者らが完成を祝った。

復元した鐘はサクラダ・ファミリア聖堂でも知られ、数々の世界的な建築物を残している建築家ガウディが、バルセロナ「グエル別邸」の「龍の門」に取り付けた高さ約25センチの鐘。スペイン旅行中の精密機械

工学科OBで富山県高岡市にある株式会社小泉製作所の小泉俊博社長に偶然、鐘復元の依頼があり、戸井教授に音響シミュレーションの依頼が持ち込まれたのは昨年秋。で、復元作業がはじまった。



実物大の「グエル別邸」の鐘をはさんで、戸井教授(右)と武田さん

外形寸法は現状を保ち、バルセロナという地にふさわしい音を創るため、研究室の修士1年、武田晃さんが、鐘の内側の形状によってどのような音が出るかを音響シミュレーションした。解析してでてきた音を戸井教授と相談し、どのような音がふさわしいか議論。ある程度形が決まったところで鐘のミニチュア版をつく

り、音を奏でてみて、材質の違いなども含めた議論を重ねていった。

実際には40から50ものシミュレーションを行い、完成までに2〜3ヶ月を要した。復元した鐘は、比較的高い澄んだ金属音を

と音響シミュレーションを活用して快適な音創りを目指す共同研究を行うことも多いという。

スペイン・バルセロナに行くことがあったら、「バルセロナの爽やかな空気」にふさわしい高く澄んだ音



「グエル別邸」の復元された鐘

奏で、鐘の内側には Chuo University の Takeshi Toi, Akira Takeda などの名前が刻印された。

戸井教授の研究室は、主に音響の研究を行っている世界でも数少ない研究室のひとつ。今回のように企業

色」と戸井教授がいう復元された鐘を聴きに、「グエル別邸」の「龍の門」を訪れてみてはいかがだろうか。

(学生記者 橋本奈緒美 11年)  
 大学院理工学研究科修士2年)